

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生医療福祉専門学校福岡校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生医療福祉専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
業界関係者	天野 恵	社会福祉法人まごころ会 あゆみらい保育園(園長)	欠席
業界関係者	井上 将彦	医療法人聖峰会 聖峰会マリン病院(事務長)	出席
業界関係者	潮田 大介	有限会社ケンルック(事務長)	出席
業界関係者	江川 順一	社会福祉法人つくし福祉会 特別養護老人ホームはなつくし(施設長)	出席
業界関係者	大澤 利通	公益社団法人 福岡県介護福祉士会	出席
業界関係者	大庭 欣二	福岡福祉向上委員会(代表)	欠席
高等学校	熊谷 智彦	学校法人久留米学園 久留米学園高等学校(校長)	出席
業界関係者	桑原 由美子	NPO法人発達障がい者就労支援 ゆあしっぷ(理事長)	出席
業界関係者	副島 和代	そえじま内科クリニック(事務長)	出席
業界関係者	武田 聡	NPO法人木もれ日 カフェヒュッテ(施設長)	出席
業界関係者	矢島 博仁	公立学校共済組合 九州中央病院(事務部長)	出席
地域住民代表	高田 照幸	株式会社たかた商会(代表取締役)	出席
有識者	占部 尊士	西九州大学(准教授)	出席
有識者	大山 和宏	一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会(会長)	出席

有識者	西山 謙	公益社団法人福岡県病院協会 診療情報管理研究研修会（委員長）	出席
卒業生	田中 隼平	福祉心理学科（心理カウンセラー科） 卒業生	出席
卒業生	中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生	出席
卒業生	宮井 浩志	社会福祉科 卒業生	出席
ご家族	原岡 泰子	こども未来学科 ご家族	出席
ご家族	濱町 団	福祉心理学科 ご家族	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2022年6月25日（土）13：00 ～ 14：40

場 所：麻生塾福岡キャンパス 4号館 3階 431・432教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2021年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題や改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- （1）自己評価結果の内容が適切かどうか
- （2）今後の解決方向が適切かどうか
- （3）学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- （4）その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく達成度による下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- S：達成度がきわめて高い
- A：ほぼ達成している
- B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）
- C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

既存の学生募集のブラッシュアップに加え、福祉の文脈での PR 活動を行い、医療関係及び福祉職の魅力を一人でも多くの方に理解していただき、業界全体への人材供給に貢献する。

- ①地域 No.1 の専門学校に向けた取り組み
- ②持続可能な経営基盤の構築

【取り組み状況ならびに成果と課題】

①地域 No.1 の専門学校に向けた取り組みとして、本校通学課程の教員全員で「そもそも地域 No.1 とはなにか」というところから議論を行った。地域 No.1 の専門学校になるためには、関係業界のニーズ等を反映した実践的な人材の育成を図り、地域から求められる存在になる必要がある。何より教職員がこのことを再認識することが重要であり、医療・福祉の臨床現場に必要な新しい知識・技術を積極的に取り入れ、本校の教育を不断にアップデートしていくことが求められる。議論の結果、これらのことを教員全体で共有することができた。

現在、関係施設等にアンケート調査を行い、卒業生の働きぶりをはじめとする本校への評価や教育現場に求められていることを改めて把握することに努めている。これらをもとに、教員が主体となって医療・福祉現場で求められる実践的な人材を育成する取り組みを強化し、地域 No.1 の専門学校としての存在を確立する。

②麻生塾全体の入学者数は昨年度比 90%程度となったが、本校は昨年度より多くの入学者を迎えることができた。特に介護福祉科は定員を充足した。また、ICT のシステムを導入し、最新の介護技術を教育できる環境を整えたことで次年度以降の学生募集にも寄与することができる。

また、学校の魅力を映像で配信する取り組みや代表的な SNS の一つである Instagram の積極的な活用を通じて本校の学びや学校生活を高校生に訴求した。

持続可能な経営基盤を構築するためには、安定した学生募集を実現することが必須であり、そのための取り組みを強化していく。

【委員の方からのご意見】

コロナ禍を理由にせず、外に目を向けて教育活動を高めるアクションを取れている。引き続き教職員が一丸となって発信してほしい。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】
建学精神に基づき、教育理念、教育の目的及び人材育成像を学科ごとに定めてホームページに掲載し、社会に向けて広く公表した。また、同じく学生便覧にも掲載し、学生・保護者、非常勤講師に配付、説明した。

【課題と今後の取組み】
教育目的や人材育成像を具体化することについては、本年度から取り組んでいる「地域 No.1 の専門学校に向けた取組み」を踏まえてカリキュラムに適宜反映させていく。

【委員の方からのご意見】
教育理念・教育目標の周知については、公表方法含めてしっかり取り組んでいると思われる。今後は、時代の流れ、環境の変化に応じた理念・目標の確認、見直しも必要になってくるとと思われる。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

学校の理念に沿った運営方針を定め、毎年4月に校長代行（運営責任者）が運営方針に沿った事業計画の概要について説明している。事業計画をもとに、全教職員で目標を共有して、各学科の教育活動に落とし込んだ。また、毎月2回の定例教務会議を実施し、学校の理念に沿った運営方針や事業計画の進捗状況を教職員全員で確認した。さらに、責任者会議や各系学科会議では、現状把握や問題解決のための具体的な取り組みを話し合った。

【課題と今後の取組み】

変化が大きく、そのスピードが速い現代の状況において、当然ながら教育についてもその変化の真ただちにある。その変化に対していかに適応・順応していくか、さらにいかに全ての教職員が同じ目的・方向を見て教育活動を展開できるかが今後の重要な鍵となる。

事務職員の研修計画は、以前5カ年計画で定めたものがあるが、コロナ禍の中で実現がほとんどできていないので見直す。

人事制度に関しては、2021年度で新制度構築の基盤が出来上がってきたため、2022年度からは新しい人事制度・評価制度・給与制度の整理再構築を行っていく。

【委員の方からのご意見】

パソコンのスキルアップのための研修を取り入れてはどうか。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	A	A
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	B	B

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適正

- ・教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- ・教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- ・教育の評価を適切に行っているか。
- ・成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- ・教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

教育課程編成にあたっては、今年度も全体研修の開催はできなかったが、令和元年度の「教学マネジメント研修」を参考に、各学科ともオンラインにて8月にカリキュラム会議を開催し、校長代行及び校長代行補佐も参画する中で意見交換を行った。カリキュラム会議では、6月に開催した第1回教育課程編成委員会での意見を踏まえた上で、より実践的な教育内容となるよう検討を行った。

また、学修方法や評価方法については、新シラバスの様式に則り、教育の目的、教育目標の達成を明記し、学生に周知することによって、計画的な学習を意識づけることができた。

【課題と今後の取組み】

カリキュラムが現場・企業等が求めるニーズに合致したものになっているかどうかについては、今後もさらに検証、改善を進めていく必要がある。

また、非常勤講師及び外部講師に、本校の教育理念等を理解し、それらに沿った教育を実施していただくため、教師アンケートのフィードバック等の機会を有効に活用してコミュニケーションを図る必要がある。

以上を踏まえ、カリキュラムをまとめたものを関係施設や企業、実習施設へ配布するなどして周知するとともに、広く意見を聴取する機会を作り出していく。

【委員の方からのご意見】

知識・スキルはあるが、コミュニケーション能力が低い、ストレス耐性が低い新卒者が多い印象がある。入職後1か月程度で退職するケースも散見される。教育課程の中でコミュニケーションスキル、ストレス耐性を付けるカリキュラムを入れてみてはどうか。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A	A
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	A	A
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A	A
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

2021年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、卒業年次の就職活動開始時期が大幅に遅れたが、業界からの求人数は例年とほぼ変わりなく秋以降徐々に活動が活発となり、就職状況は例年どおりの推移となった。

資格取得については、カリキュラムにおいて体系的な位置づけのもと、教育活動および学生への支援により指導を行っている。資格取得率・国家試験等合格率については、学科・取得内容によって差異があるものの、学科内で結果に関する分析・検証をおこない、改善を図っている。ただ、医療系の検定科目の取得率は近年低下傾向が続いている。

【課題と今後の取組み】

学習につまずいているケースなど、学修成果が上がらない学生や退学につながりそうなケースに対しては「ケース検討会議」等を通じた個別対応、オンラインによる面談を引き続き行っていく。

また、学科毎の目標達成に向けて「学科運営計画」を策定し、全教職員で共有することによって、学科運営を「見える化」し、学習成果を測定することで教育活動の更なる底上げを図る。

【委員の方からのご意見】

非常にいい取り組み・実践を行っている。引き続き全教職員で共通認識のもと動いてほしい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A	A

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援、健康管理については、担任からの相談により、各系責任者が把握し、学内での検討をはじめとして、法人本部の学生相談室とも適時連携して行った。

また、経済的側面に対する支援については、法人本部学生支援グループと連携しながら進めている。特に、修学支援や生活環境への支援については、保護者との連携も重要であるため、電話・面談による状況の説明を適切に行った。2021年度は「緊急給付金」の対象となる学生に対して、給付金の申請に関する事務を適切に行った。

【課題と今後の取組み】

多様な問題を抱える学生が増えている傾向にあり、さらにコロナ禍での様々な相談を受ける担任にかかる心理的な負担が増えている。担任が抱える心理的負担を軽減するため、引き続き「ケース検討会議」において全員体制で対応していく。

法人全体の取組みとして「サポートクラス」を新設する予定であり、あらゆる角度から学生の学びを支援する。

【委員の方からのご意見】

経済的な理由で退学に至る学生が多いと聞いている。あらゆる支援策を検討し、退学防止につなげてもらいたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適正

- ・教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。
- ・教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

教育上の必要性に対応した施設・設備に関しては、維持・管理、安全・衛生について、法人本部業務推進グループと連携しながら計画的に実施した。教育上の必要性に対応した機材・備品の整備についても、年次的に計画して実行した。

また、オンライン授業に必要な機器については、学生に有料・無料を含めて貸し出しを行った。また、リユース PC を安価で購入できる仕組みを構築し、2021年度新入生の利便を図った。

さらに、福岡キャンパス内にある総合図書館では、養成施設として必要な図書や法人各校からニーズのある書籍などをヒアリングしたうえで定期的に購入、固定資産管理規程に基づき、図書や書籍を含む資料類を適切に管理した。

【課題と今後の取組み】

施設・設備の管理に関しては、引き続き適切に対応していく。また、教職員や学生に向けた図書館の蔵書情報の発信を積極的に行い、教育活動に活用してもらう。

【委員の方からのご意見】

今後もオンラインでの授業も継続されると思うので、環境改善に向けては引き続き対処してもらいたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S	S

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッションポリシーを策定し、学生便覧によって教職員はじめ学生等に周知し、WEBや募集要項によって社会に公表した。選抜方法は募集要項に明記し、かつ選考基準を定め、適正に入学者選抜を行った。

また、法人の財務状況などを考慮しながら健全な校納金や入学金の設定を行っている。金額変更などの決定事項は議事録に記載し、校納金シートや募集要項へ正確に反映させるとともに関係部署への情報共有を行っている。

【課題と今後の取組み】

学生納付金等は、法人の財務状況などを考慮しながら、税率変更や物価上昇の影響など必要に応じて、適切な金額を設定する必要がある。選考基準、選抜方法を毎年見直し、適正な募集活動に取り組むとともに、引き続き学生納付金等の妥当性を確認していく。

【委員の方からのご意見】

医療・福祉系の職業は今後もさらに重要となる。中・高校生への魅力発信については、引き続き善処していただきたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	A	A
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

学生数の減少により、本校の財務基盤は必ずしも安定しているとは言えないが、予算計画を策定し、月次における予算決算管理を実施するとともに、必要に応じて前年度対比分析を行った。重要な差異が生じた場合には、原因の特定や問題点の把握を行い、適切に対応し学生に必要かつ快適な教育環境を提供できるよう努めた。

監査は、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事により適切に行われている。財務情報は、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題と今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による財務分析等の取り組みを継続的に行っていく。その取り組みにより重要な差異や変動を把握し、対応策の検討、その実施を積み重ね、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行っている。しかし、2021年度も専任事務職員の新たな人員を配置することができなかった。

法令遵守に関する啓発活動は、職員に対して都度の情報共有にとどまり、定例会議等での周知徹底が不十分であった。ハラスメント防止に関する啓発について、法人内では定期的にアンケート調査と結果のフィードバックをおこなっているが、教職員全体の意識には個人差があるように感じている。

また、学生に対しても、本校のハラスメント防止啓発活動について学生便覧にも掲載するとともに、年度初めのホームルーム等を通じて周知した。

【課題と今後の取組み】

教職員のハラスメント防止啓発活動については、アンケート調査の結果を踏まえて、定例会議での周知や研修参加への意識づけをはじめとした取組みを行う。

【委員の方からのご意見】

コンプライアンス違反は重大なリスクとなるので、文部科学省及び厚生労働省の関係法令等をしっかりと意識して教育活動を行ってほしい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	B	B
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。
また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施している。自己点検・評価活動によって抽出された課題の解決に向けては、教務会議で改善計画等を周知し、共有化を図る予定であったが、年度前半の定例会議が新型コロナウイルス感染拡大の影響でおこなえなかったこと、後半においても時間的に会議の時間が短縮されたことが重なり、課題解決に向けて定期的な進捗状況の共有が十分ではなかった。

【課題と今後の取組み】

改善計画の進捗状況を教職員で共有する必要があると感じているので、定例会議以外においても発信する仕組みを検討する。

【委員の方からのご意見】

自己点検や本委員会は社会福祉法人でいうところの理事会、評議員会に相当する。一部の教職員で考え検討するのではなく、全教職員が主体的になれるような仕組みや取組みが重要である。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

月 1 回、定期的で開催している社会福祉科による「ASO こども食堂」は、コロナ禍において年 1 回のみの開催となった。それ以外では、学生主体で近隣の清掃活動や、近隣小学生においての音楽発表会などを開催することができた。

また、こども未来学科による公民館での「子育てサロン」もコロナ禍の中でも感染状況が落ち着いた時期に開催し、社会福祉科による近隣の小学校での福祉体験授業も例年通りおこなえた。

一方、社会福祉施設や事業所からのボランティアの依頼は今年度もほとんどなかったため、学生はボランティア活動に参加できなかった。

【課題と今後の取組み】

介護系や医療系の学科の地域貢献活動や地域の諸団体との連携をテーマとした教育活動の展開が十分とは言えない。あらゆるチャネルを活用しながら模索し、少しでも地域貢献活動等を実施できるように調整・検討していく。

【委員の方からのご意見】

学校行事や実習の前に新型コロナワクチンの接種については学校としてどのように推奨しているのか。また、ボランティアは例年どおり依頼があっているのか、学生は校外活動に参加できているか。参加できていなければ、学校から働きかけていく方法もあると思う。

また、学生のワクチン接種状況について学校は把握すべきである。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S	S

基準 1 2 国際交流

学校関係者評価結果： 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の受入れ、在籍管理については、法人本部学生支援グループと連携して行った。また、「国際介護福祉科」での、在留審査手続きおよび在留資格認定証明書の交付申請に係る取次を担当する教員を配置し、上記の部門と共に相談体制を整備した。

国際介護福祉科および介護福祉科に在籍または入学予定の留学生に対して、資金面・生活面でサポートを行う企業と連携し、業界・企業とのマッチングや奨学金制度のシステムを構築した。

【課題と今後の取組み】

留学生への指導ノウハウを蓄積するとともに、留学生に関わる法的手続きは法人本部学生支援グループの担当者を中心として、クラス担任との間で情報管理を行いながら引き続き対応していく。

【委員の方からのご意見】

退学者の退学理由は経済面、メンタル面多様だと思うが、担任を中心に丁寧に対応してほしい。家族（保護者）との連携はとても重要、引き続きしっかりと連携してもらいたい。

小項目	評価項目	自己点検 評価	学校関係者 評価
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	A	A

以上